巻頭言

ご　あ　い　さ　つ

理事長　加藤　邦男

本年３月の理事会においてご推薦を賜り、４月１日付けをもって本協会の理事長に就任することになりましたので一言ごあいさつを申し述べます。前任理事長の松浦邦男先生は３月31日をもって退任され、本協会の名誉顧問に就任されました。先生の益々のご健勝をお祈りするとともに、今後も相変わらぬご指導を賜りますようお願い申し上げます。また理事西本孝一京都大学名誉教授、農学博士が、同日をもって常務理事にご就任になりました。相変わりませず協会運営のご指導をお願い申し上げます。

現在の名誉顧問川上貢先生が理事長をお勤めになっておられた平成13（2001）年に、本会誌が創刊されました。それ以来今年で約10年が経過しようとしています。毎号の巻頭言は本会理事および評議員の先生方に執筆をお願いしてきましたが、丁度第18号で全員を一巡し、私に二度目の番がまわってくるところでした。したがいまして、本号で理事長就任のご挨拶をかねて巻頭言を執筆することになりました。

昭和30（1955）年に当協会は財団法人として発足しましたので、今年で55年を数えます。また本協会の設立運営に深い関わりをもつ京都大学の建築学教室が今年で創立90周年を迎えます。建築学教室の歴史の半分以上にかかわり、その間、協会は一貫して、「建築技術に関する研究調査を行い、あわせて建築技術の研究を助成し、その発展を図り、もって建築文化の向上発展に寄与すること」を活動目的としてきました。

具体的には、調査研究並びにそれらの受託または依託、研究助成、文献の刊行、その他の事業を行なってきました。調査及び研究の委託・受託に関しては、国立大学の独立行政法人化や、非常勤研究員が京都大学定年退職後に再就職された諸大学の教員となったことなどがありますが、なお持続的に活発な活動が行われています。研究助成に関しては、京都大学の建築学教室をはじめその他の研究機関に研究費の寄付を行うようにもなりました。日本建築研究室のいわゆる事業部門では、近年文化財及び伝統建築に関わる調査・構造診断補強工事、復原工事、総合防災対策工事などがその中心的事業であります。昨今ではとくに耐震診断や総合防災関連の受託が増加しています。事務局では、伝統的な木造建築の耐震診断や耐久性の技能を有する資格者育成をはかるために平成21年度から「伝統建築診断士」制度を発足させ、資格取得のための講習会を始めています。研究部門が受け持つ範

囲は、建築学の各種専攻や造園学のほか、農学研究の先生方による木材・生物の研究にも及んでいます。日本建築研究室の事業部門は、近年ますます重要視されてきた伝統建築等の文化財保全などと共に順調に経過し、仕事量も増加してきました。その内容につきましては巻末の「事業報告」を、研究部門の受託概要をまとめた「研究報告」と併せてご覧下さい。

本協会の理事、名誉顧問であられた故小堀鐸二先生は、本誌第３号の巻頭言で「理事退任の弁」と題した文を寄せられ、「…長寿社会になって、ついまだまだ元気だと頑張ってしまい、後進に道をゆずるという奥ゆかしさを忘れ掛けてしまっている。80歳を過ぎるまで理事職に留まってきた反省と共に、誰かがこの際、定年の事を言い出さねばという思いから辞任を申し出た次第だ」と記されています。私もそろそろ小堀先生のお叱りを受ける年頃になりますが、いましばらくは協会の一層の充実発展のため、微力ながら努力する所存です。